

Osaka@EURO

n°7 - 2009年6月

今回は、6月にエクス・アン・プロヴァンスで開催された「ビジネス・フォーラム・ジャパン」について報告します。今回で6回目を迎える同フォーラムには、フランスで活動する日本企業など多くの関係者が参加した地元企業等と交流しました。

○ご挨拶.....

皆様、はじめまして。本年4月から前任の高橋に代わり、大阪市パリ事務所長に就任しました上原浩二と申します。

赴任して2ヵ月で、フランス語にも海外生活にも不慣れですが、やる気だけは歴代所長の中でもトップクラスと自負しておりますので、よろしく願い申し上げます。

○「ビジネス・フォーラム・ジャパン」への参加
当事務所は、エクス・アン・プロヴァンスにおいて、6月4日・5日にジェトロリヨンが主催した「ビジネス・フォーラム・ジャパン」に参加しました。

最初にエクス・アン・プロヴァンス都市共同体の代表者から挨拶があり、続いてジェトロリヨンの瀬藤所長より「対日ビジネスについての考え方」が地元企業等に説明されました。また、在フランス日本国大使館の片岡商務担当参事官から、日本経済の現状と市場ポテンシャルについてのレクチャーが行われ、食品、IT、観光など、地元の産業集積に合った企業代表や専門家による紹介や企業間の個別面談等が開催されました。

大阪市も、日本のロボット産業の現状と大阪がアジアで最初のロボットが生まれた町であり、ポスト自動車産業として、ロボット産業に力を入れていること、関連施策及び大阪駅北ヤードの再開発計画等の説明を行うとともに、大阪の中小企業が製造したロボットの実演を行いました。

また、翌5日には、外交評論家で元NHK特別主幹、パリ日本文化会館初代館長でもある磯村尚徳氏から、「日本は経済危機を脱却できるのか？」の題材で講演がありました。

講演では、日本は資源もなく、人口も減り高齢化も進むことから、日本経済は終焉という見方をする人もいるが、日本は石油がなかったから省エネ技術が発達し、エネルギー効率では、ロシアの18倍、中国の9倍、アメリカの2倍と言われる技術確立していること。特に現在注目されているハイブリット技術や、太陽電池・燃料電池・リチウム電池の3種類の電池開発技術、そして原子力の3分野の革新技术は優れたものを持っていること。

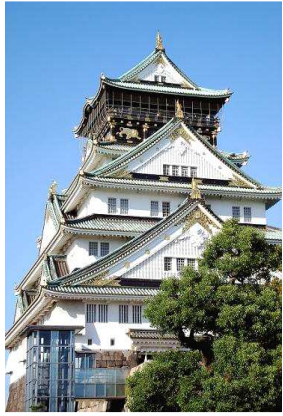
高齢化に伴う介護・労働者不足に対しても、ロボット技術を発展させるとともに、医療分野においても、技術革新を図っているなどの説明がなされた。

磯村氏の講演の次に、IMRA ヨーロッパ（アイシン精機グループ）の三ツ本社長、NTTドコモパリ事務所の斉藤所長、JEAN BARTHELEMY CONSULTANCY のバルテレミ代表、そして上原が参加し、磯村氏の司会のもと、「日本はイノベーションで救われるのか？」をテーマに円卓討論会が行われ、参加された地元企業や大学関係者なども活発な意見交換が行われた。

エクス・アン・プロヴァンスは、人口約13万人、風光明媚かつ文化の香り高い観光地、またセザンヌの町として、日本人には有名であるが、研究・大学機関が研究に適した環境を整備しており、質の高い人材を抱え、医療、ロボット、電池、原子力など、日仏が協力して新しい技術を生み出せる町でもあります。

また、フランス政府が誘致に成功した、国際共同研究開発プロジェクトである「ITER（国際熱融合実験炉）」が、近隣のカダラッシュに建設されており、ここには、フランス、ドイツ、イギリス、日本、中国、インド、韓国、ロシア、アメリカなどから科学者が集まり、核融合が新エネルギーになり得るか否かを、科学的・技術的に実証する予定で、成功すれば、新しいクリーンエネルギーとして注目されることとなります。

さらに、エクス・アン・プロヴァンスでは、旧市街地に隣接した未整備地域の整備案を公募し1,500台収容の地下駐車場を併設した近代的なショッピングモールを建設。交通問題を解決しながら、古き良き時代の町並みと、近代的な町並みによる相乗効果でより高い集客を図るなど、伝統的精神と今日の文化・建築を取り入れた都市整備が進められています。



LIVING
&
DESIGN

The Future of Living Spaces

September 16 Wed.-18 Fri., 2009

10:00 -17:00 (16:00 on the last day)

INTEX OSAKA